

第81回 簿記実務検定第 1 級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

製	品	/	級	製	品	2	級	製	品	副	産	物
仕	損	品	第	/	工 程 半 製 品	第	2	工 程 半 製 品		素	材	
買	掛	金	売	上	原 価	従	業 員 賞 与 手 当			仕	損	費
製	造		第	/	工 程 製 造	第	2	工 程 製 造		製 造 間 接 費		
製造間接費配賦差異			本		社	工		場				

- a. 単純総合原価計算を採用している東京製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。ただし、半年分の賞与の支払予定額は ¥2,940,000 である。
- b. 個別原価計算を採用している新潟工業株式会社では、製造指図書#7の製品全部が仕損じとなり、新たに製造指図書を発行して、代品を製造することにした。ただし、製造指図書#7に集計された製造原価は ¥180,000 であり、仕損品の評価額は ¥14,000 である。
- c. 等級別総合原価計算を採用している富山製作所において、/級製品850個と2級製品1,300個が完成するとともに副産物が発生した。ただし、総合原価は ¥1,977,000 であり、そのうち副産物の評価額は ¥152,000 であった。なお、等価係数は次の各製品/個あたりの重量を基準としている。
- / 級 製 品 400g 2 級 製 品 300g
- d. 会計期末にあたり、製造間接費配賦差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、製造間接費配賦差異勘定の前月繰越高は ¥68,000 (借方) であり、当月の製造間接費の実際発生額は予定配賦額より ¥5,000 多く、この額は製造間接費配賦差異勘定に振り替えられている。
- e. 工程別総合原価計算を採用している福井工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程（最終工程）に投入した第/工程の完成品原価は ¥4,500,000 である。ただし、当社は第/工程の完成品原価をすべて第/工程半製品勘定に振り替えている。
- 第 / 工 程 ¥3,690,000 第 2 工 程 ¥5,360,000
- f. 工場会計が独立している山梨工業株式会社の本社は、素材 ¥840,000 を掛けて買い入れ、仕入先から工場に直送させた。ただし、製造活動に関する勘定は工場のみ に 設 け て い る。(本社の仕訳)

2

長野製作所は、個別原価計算を採用し、X製品（製造指図書#1）とY製品（製造指図書#2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (2) 補助部門費を各製造部門に配賦する仕訳を示しなさい。
- (3) 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。
- (4) X製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 月初仕掛品はなかった。

ii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,280 の予定賃率を用いている。

iii 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

資 料

a. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥13,392,000	¥8,400,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	18,600時間	15,000時間

b. 製造部門の当月直接作業時間

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	850時間	750時間
	製造指図書#2	650時間	550時間

c. 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×800時間	16kW×500時間	—	6kW×100時間
修繕部門費	修繕回数	5回	4回	2回	—

d. 完成品数量 X製品（製造指図書#1） 80個

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 静岡製作所の下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費 b. 当期経費 c. 当期製品製造原価

資 料

① 素 材	期首棚卸高	¥ 341,000	当期仕入高	¥1,176,000
	期末棚卸高	¥ 378,000		
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥ 62,000	当期仕入高	¥ 328,000
	期末棚卸高	¥ 58,000		
③ 賃 金	当期予定消費高	¥	当期実際消費高	¥1,082,000
	予定賃率を用いており、賃率差異勘定の借方に ¥22,000 の残高がある。			
④ 給 料	当期消費高	¥ 250,000		
⑤ 外注加工賃	前期前払高	¥ 14,000	当期支払高	¥ 127,000
	当期前払高	¥ 9,000		
⑥ 電力料	当期支払高	¥ 113,000	当期測定高	¥ 115,000
⑦ 減価償却費	当期消費高	¥ 95,000		
⑧ 仕掛品	期首棚卸高	¥ 396,000	期末棚卸高	¥ 420,000

(2) 標準原価計算を採用している愛知製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 月末仕掛品の標準原価 b. 能率差異 c. 操業度差異

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 能率差異は標準直接作業時間と実際直接作業時間の差異に標準配賦率を掛けて計算する。

iii 解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資 料

① 標準原価カード

S 製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	7kg	¥ 200	¥1,400
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	¥1,000	¥2,000
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2時間	¥ 800	¥1,600
	製品/個あたりの標準原価		¥5,000

② 生産データ

月初仕掛品	100個 (加工進捗度50%)
当月投入	500個
合計	600個
月末仕掛品	150個 (加工進捗度40%)
完成品	450個

③ 製造間接費実際発生額 ¥810,000

④ 実際直接作業時間 980時間

⑤ 製造間接費予算(公式法変動予算)

基準操業度(直接作業時間) 1,000時間

製造間接費予算額 ¥800,000

変動費率 ¥500

固定費予算額 ¥300,000

(3) 岐阜工業製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。

a. 販売数量が1,500個のときの営業利益 b. 損益分岐点の売上高

c. 目標営業利益 ¥420,000 を達成するための販売数量

資 料

① 販売単価 ¥2,400

② 製造費用
変動製造費(製品/個あたり) ¥1,200
固定製造間接費 ¥650,000

③ 販売費及び一般管理費

変動販売費(製品/個あたり) ¥360

固定販売費及び一般管理費 ¥274,000

(4) 単純総合原価計算を採用している三重製作所の次の資料から、月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

iii 正常減損は製造工程の始点で発生しており、正常減損費は完成品と月末仕掛品の両方に負担させる。

資 料

① 生産データ

月初仕掛品	400kg (加工進捗度50%)
当月投入	3,240kg
合計	3,640kg
月末仕掛品	600kg (加工進捗度60%)
正常減損	40kg
完成品	3,000kg

② 月初仕掛品原価

素材費 ¥ 356,000

加工費 ¥ 164,000

③ 当月製造費用

素材費 ¥2,920,000

加工費 ¥2,692,000

(5) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

標準原価計算におけるパーシャルプランとは、製造勘定の借方に各原価要素の ア を記入し、貸方に標準原価で計算した完成品原価と月末仕掛品原価を記入する方法である。これにより、製造勘定の借方と貸方に差額が生じ、この差額は イ の総額を示す。なお、月初仕掛品は前月の月末仕掛品であるから、標準原価で記入される。

1. 標準消費額 2. 原価差異 3. 実際発生額 4. 営業利益

4

北陸工業株式会社は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月3/日⑨の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・組間接費勘定・A組製造勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 組別総合原価計算表を完成しなさい。
- (4) /月末の賃金未払高を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 2,000個 @¥800 ¥1,600,000
 工場消耗品 3,200〃 〃 30 ¥ 96,000
 仕 掛 品 A 組 ¥1,504,000 (うち、素材費 ¥820,000 加工費 ¥684,000)
 B 組 ¥ 728,000 (うち、素材費 ¥492,000 加工費 ¥236,000)
 賃 金 (未払高) ¥1,192,000

ii 素材の消費高は、/個あたり ¥820 の予定価格を用いて計算し、消費材料勘定を設けて記帳している。なお、実際消費高の計算は総平均法によっている。

iii 工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iv 賃金の消費高は、作業時間/時間につき ¥1,500 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。

v 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

vi 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

取 引

/月 9日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材 6,000個 @¥840 ¥5,040,000
 工場消耗品 12,000〃 〃 30 ¥ 360,000

24日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額 ¥3,725,000
 うち、控除額 所 得 税 ¥298,000 健康保険料 ¥149,000

3/日 ① 当月の素材予定消費高を次の消費数量によって計上した。

A 組 2,800個 B 組 2,700個

② 工場消耗品の月末棚卸数量は3,900個であった。よって、消費高を計上した。(組間接費)

③ 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。

A 組 1,200時間 B 組 1,000時間 間接作業 200時間

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥149,000 を計上した。

⑤ 当月の外注加工賃について、次のとおり消費高を計上した。

A 組 ¥245,000 B 組 ¥74,000

⑥ 当月の間接経費について、次のとおり消費高を計上した。

電 力 料 ¥426,000 保 険 料 ¥213,000
 減価償却費 718,000

⑦ 組間接費 ¥2,145,000 を、次の機械運転時間を基準に配賦した。

A 組 4,290時間 B 組 2,860時間

⑧ 当月の生産データは次のとおりであった。よって、各組の完成品原価を計上した。

	A 組	B 組
月初仕掛品	500個 (加工進捗度60%)	200個 (加工進捗度50%)
当 月 投 入	1,400個	900個
合 計	1,900個	1,100個
月末仕掛品	400個 (加工進捗度50%)	100個 (加工進捗度50%)
完 成 品	1,500個	1,000個

⑨ 当月の素材実際消費高を計上した。なお、消費数量は5,500個である。

⑩ 当月の賃金実際消費高 ¥3,576,000 を計上した。

⑪ 素材の予定消費高と実際消費高との差額を、材料消費価格差異勘定に振り替えた。

⑫ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

第81回 簿記実務検定 1級 原価計算 [答案用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

部門費振替表

相互配賦法

平成○年/月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,810,000	676,000	501,000	369,000	264,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修繕回数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(2)

借方	貸方

(3)

借方	貸方

(4) 製造指図書#/

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費			集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要
1,656,000		第1				直接材料費
		第2				直接労務費
						製造間接費
						製造原価
						完成品数量
						製品単価

80個

¥

2

得点

3

(1)

a	当 期 材 料 費 ￥
b	当 期 経 費 ￥
c	当 期 製 品 製 造 原 価 ￥

(2)

a	月 末 仕 掛 品 の 標 準 原 価 ￥
b	能 率 差 異 ￥ ()
c	操 業 度 差 異 ￥ ()

(3)

a	販 売 数 量 が 1,500 個 の と き の 営 業 利 益 ￥
b	損 益 分 岐 点 の 売 上 高 ￥
c	目 標 営 業 利 益 ￥420,000 を 達 成 す る た め の 販 売 数 量 個

(4)

月 末 仕 掛 品 原 価 ￥

(5)

ア	イ

3	
得点	

4

(1)	借 方	貸 方
/月3/日⑨		

(2)	消 費 賃 金	
	組 間 接 費	
	A 組 製 造	
1/1 前 月 繰 越	1,504,000	

(3) 組別総合原価計算表
平成○年/月分

摘 要	A 組	B 組
組 直 接 費 素材費		
加工費		
組 間 接 費 加工費		
当 月 製 造 費 用		
月初仕掛品原価 素材費	820,000	492,000
加工費	684,000	236,000
計		
月末仕掛品原価 素材費		246,000
加工費	476,000	
完 成 品 原 価		
完 成 品 数 量	個	個
製 品 単 価	¥	¥

(4) /月末の賃金未払高 ¥

4	
得点	

第81回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解 答]

1	借 方		貸 方	
a	製 造	490,000	従業員賞与手当	490,000
b	仕 損 品 費	14,000 166,000	製 造	180,000
c	1 級 製 品 2 級 製 品 副 産 物	850,000 975,000 152,000	製 造	1,977,000
d	売 上 原 価	73,000	製造間接費配賦差異	73,000
e	第1工程半製品 第2工程製造品 製 品	3,690,000 4,500,000 5,360,000	第1工程製造 第1工程半製品 第2工程製造	3,690,000 4,500,000 5,360,000
f	工 場	840,000	買 掛 金	840,000

2

(1) 部門費振替表

相互配賦法		平成〇年/月分			
		金額	製造部門	補助部門	修繕部門
部門費	配賦基準		第1部門	第2部門	
部門費合計		1,810,000	676,000	501,000	369,000
動力部門費	14,000×運転時間数	369,000	240,000	120,000	9,000
修繕部門費	修繕回数	264,000	120,000	96,000	48,000
第1次配賦額		633,000	360,000	216,000	48,000
動力部門費	14,000×運転時間数	48,000	32,000	16,000	
修繕部門費	修繕回数	9,000	5,000	4,000	
第2次配賦額		57,000	37,000	20,000	
製造部門費合計		1,810,000	1,073,000	737,000	

(2)

借 方	貸 方
第1製造部門費	397,000
第2製造部門費	236,000
	動力部門費
	修繕部門費
	369,000
	264,000

(3)

借 方	貸 方
第1製造部門費	7,000
製造部門費配賦差異	9,000
	製造部門費配賦差異
	第2製造部門費
	7,000
	9,000

(4) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費		集 計	
		部門	配賦率	金額	摘要
1,656,000	2,048,000	第1	850	612,000	直接材料費
		第2	750	420,000	直接労務費
				1,032,000	製造間接費
				4,736,000	製造原価
				80個	完成品数量
				59,200	製品単価

3

(1)	a	当期材料費	¥ 1,471,000
	b	当期経費	¥ 342,000
	c	当期製品製造原価	¥ 3,099,000

(2)

a	月末仕掛品の標準原価	¥ 426,000
b	能率差異	¥ 48,000 (不利)
c	操業度差異	¥ 6,000 (不利)

(3)

a	販売数量が1,500個のときの営業利益	¥ 336,000
b	損益分岐点の売上高	¥ 2,640,000
c	目標営業利益¥420,000を達成するための販売数量	1,600 個

(4)

月末仕掛品原価	¥ 852,000
---------	-----------

(5)

ア	イ
3	2

4

(1)

	借方	貸方
/月3/日⑤	消費材料	素材
	4,565,000	4,565,000

(2)

	消費費	賃金
1/31 賃率	3,576,000	1/31 諸口
〃 賃率差異	24,000	
	3,600,000	3,600,000

組間接費

1/31 工場消耗品	339,000	1/31 諸口	2,145,000
〃 消費賃金	300,000		
〃 健康保険料	149,000		
〃 諸口	1,357,000		
	2,145,000		2,145,000

A組製造

1/1 前繰越	1,504,000	1/31 A組製品	6,000,000
31 消費材料	2,296,000	〃 次月繰越	1,132,000
〃 消費賃金	1,800,000		
〃 外注加工賃	245,000		
〃 組間接費	1,287,000		
	7,132,000		7,132,000

(3)

組別総合原価計算表
平成〇年/月分

摘要	A組	B組
組直接費	2,296,000	2,214,000
加工費	2,045,000	1,574,000
組間接費	1,287,000	858,000
当月製造費用	5,628,000	4,646,000
月初仕掛品原価	820,000	492,000
加工費	684,000	236,000
計	7,132,000	5,374,000
月末仕掛品原価	656,000	246,000
加工費	476,000	128,000
完成品原価	6,000,000	5,000,000
完成品数量	1,500個	1,000個
製品単価	¥ 4,000	¥ 5,000

(4)

/月末の賃金未払高	¥ 1,043,000
-----------	-------------